

二十歳に なつて……



小川 落合 正仁

二十歳、人生のひと区切り、成人式は、十代の卒業式、十代との別れ、そして二十代への獨立も、もう一度自分を見つめ直し、新しい自分の道を自分自身で、決

成人としての 行動を



白倉 大類 美智子

前の晩から髪を結い、式当日は朝早くから何本ものひいで、ぎゅうぎゅうに締められた振りそでを、着て……こんな思いをしてまで、なぜ、式に出なくてはいけないのかと思ひました。

しかし、次の日に全裸(職場)へ行くと、上司や先輩達から、成人式を返したのだから……といわれると、つくづく……ああ、成人になったのだ、と思ひました。

り広げ、成人としての自覚を持ち、今まで両手に甘えず生きていた自分、にじりぞき打ちたい。

今まで関心があった社会面や政治面に視野を広げ、これからの経済の成長や動きにのりおくれなで行きた。自分の意見や行動に責任をもてるよう人間になりたいと思ふ。

これなら自分とたたかいたい。君ををなくして、大きく、たくましくくはばたかしたい。



▲入もりの友と話しがはずむ

私はつらかったけど、自分自身でそろえた振りそでは、とても重みを感じました。



秋田 齊藤 建二

大人になる時

十九歳と二十歳、ひいては子供と大人の境というものは、時間的にはほんの瞬間であると思ひます。

そして、その瞬間は、毎日何気なく過す二十歳のそれと、なんら変わりはありません。ですから、その時から突然に人物が変わったり、無理に生活を家変えたりすることは不自然で、おかつ不可能なことだと思つてです。

ただ、自分が二十歳になったのだという自覚さえあれば、今はそれでいいと思ひます。

今まで、二十年という時間を過ごしてきた結果として、二十歳になり、法的に大人になったためのことにすぎません。ですから、今までは肉体的に成長し、本来の意味での大人にならなければいけないのです。そして、決してそれがい

成人式を 迎えて



小幡 順生 陽子

つになるの女、持ち運ぶと共、涙に想ひもろさも感じるのです。

一月十五日、この日は、生まれ始めてはじめて着る振りそでに少なくて、れながら、でもやはりうれしくて……

成人としての 抱負



白倉 山 田 純

二十歳になったのだから……、考とてみる静かな時間があります。

成人になった実感は、まだピンとこないけど、まず第一に思うことは、自分の行動に責任を持たなければならぬということです。

前の晩から髪の色が気になり、まだ驚くことが多すぎます。当日は、まだ驚くうちから着物を着せてもらい、会場へ行けば、入もりの友だちと話がはずみ、家へ帰れば親せき回り、これも生まれてはじめてといつていいくらい楽しい一日を過ごした覚えもありません。

けれど、夜、着物を脱いでホッと息をついた時、感じたものは、こころで育て、見守ってくれた父や母、そして父への感謝の気持ちでした。なんだか恥ずかしくて、そのことを口では言えなかったけれど、この心は、成人の日の気持ちをも持ちつつけられる人間になりたいと思ひます。

して見られるからです。

最近の若い者は……と、ダメならん、即ばかり持されてはたまりません、誰にこの。若さ、という無限のエネルギー、可能性をフルに活用して、職場に社会に役立てるのも私達若者だと思ひます。

社会人といつても、まだ自分の職場を満しての世界しか知りませんが、同僚、友達との人間関係を大切にしたい。悔のない人生を歩むよう、いみじくもこの日にチャレンジして行きたいと思ひます。

一人一人、おめでとつ、愛ひます。取材にこころよくくださったみなさんに、心から感謝いたします。